

石室と地藏ヶ池・梵字ヶ池

1920年に地元の人たちのボランティアで夏山登山道が整備されました。その翌年、避難用として石室が作られました。石室の左側と後ろ側に池があります。左側のものは地藏ヶ池と呼ばれ、後ろのものは梵字ヶ池と名付けられました。古代、神聖な山に人が立ち入ることは制限されており、ここで行われる年に1度の行事は、人が山頂に登ることが許される唯一の機会でした。この儀式は「弥山禪定」として知られ、2人の高僧と3人の先導者が大山の山頂に写経をもって登り、ヨモギとキャラボクの枝を採り、闕伽桶（儀式用の水を入れる桶）に池の水をくんで下山しました。この神聖な水は仏様にそなえられ、ヨモギは薬草として信者に配布されます。仏教の名であった「弥山禪定」は、19世紀後半以来「もひとり神事」という神道の名となりましたが、7月14日の夜から15日の早朝までの間に行われています。